

委員会行政視察報告書（令和 6年 7月 31日）

日 時：令和 6年 7月 31日（水）
視 察 先： 東京都多摩市
視察事項： スマートシティに関する施策について（多摩センターのまちづくりに係る事業について）
内 容 <p>視察では、多摩センターで進められているまちづくりに係る事業についての説明を受けました。多摩センターでは、従来の、行政側からの「ハード面からまちをつくっていく」という発想とは逆に、使う側の立場で「いまあるまちをどう使ってもらうか」の取組を行っていることが分かりました。</p> <p>具体的には、イルミネーションやハローキティを活用した観光誘致や、小田急電鉄との50周年コラボイベント、サンリオとの協定に基づく京王電鉄のラッピング電車などが行われており、地域資源を活かした広報活動が展開されていました。</p> <p>また、駅周辺の整備や空間のソフト面での工夫も進行中で、多摩ニュータウンは東京都の戦略の一部としても重要視されています。</p> <p>さらに、スマートシティの実装においては、住民参加型の課題発見と解決が重要視されており、VRを用いた360度カメラの動画ツアーや、地域企業との連携、スタートアップ企業の支援が進められていました。インバウンド観光客をターゲットにした施策としては、ハローキティを活用したラッピング電車やスマートシティVRの導入が行われ、これらの取組は多摩ラボで発見された課題を基に進化しています。</p> <p>多摩センターでは新しい発想によるまちづくりとスマートシティの導入が進められておりました。</p>
視察を終えて <p>多摩市では、多摩センターの多摩ごうの撤退により、危機感を感じたことがきっかけで、住民や来訪者の意見を積極的に取り入れたまちづくり「まちづくり」が進行し、インバウンド観光やサンリオピューロランドを活用した地域活性化策に加えて、社会実験やスタートアップ支援による住民主体のまちづくりが進展しています。また、市民のニーズを反映したイベントの開催や、鉄道会社との連携によるスマートシティ構想がDXを活用して実現されるなど、まちの魅力向上に成功しています。しかし、京王プラザホテルの閉鎖があり、外国人による不動産の買い占めリスクといった課題もあるのではないかと委員から意見もありました。これらの問題に対応しながら、まちの賑わいを維持し、市民の声を尊重した持続可能な施策を展開することが、今後の重要な課題となってくると思いました。多摩センターでは、従来の「ハード面からまちをつくっていく」という発想とは逆に、「いまあるまちをどう使ってもらうか」という発想でまちづくりを行っている。特に行政が多摩センターでやりたいことを考えているまちの人のチャレンジを後押しする活動（場）「多摩ラボ」を積極的に活用して、社会実験をしていることもとても参考になりました。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管しております。